

JASMA 会報

2011年1月発行（季刊）社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

新年ご挨拶	1-2
平成23年 年頭所感	2
新年賀詞交歓会開催される	3
国際アパレルマシンショー (JIAM2012 OSAKA) について	3
第31回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	4

新年ご挨拶

社団法人日本縫製機械工業会
会長 安井義博



年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2011年は「卯（う）年」です。「卯年」の特徴は、地道に努力し継続できれば順調に成功へ向かう運勢とされています。日々の地道な努力を続けることによ

り、2011年が実り多い明るい年となることを強く期待しております。

昨年の我が国経済は、円高による輸出競争力の低下などがありましたが、緩やかながら景気回復が続きました。先行きについては、海外景気の下振れ懸念や為替レート・株価の変動などにより、不透明感が払拭できない状況です。

一方、海外経済は失業率が高水準であるなど引き続き深刻な状況ですが、景気刺激策の効果もあって緩やかに回復しています。特に中国はじめインドなどアジア新興国を中心に内需が拡大しており、この傾向が続くことを望んでいます。

世界のアパレル産業の動向としましては、中国市場は拡大する内需の勢いととも、まさに今や中国が世界のアパレル産業を牽引し、「生産国」だけでなく「消費国（市場・マーケット）」への転換点にあると感じております。中国における環境変化の速さには相変わらず目を見張るものがあります。私どもとしては、益々スピード感を持って対応していくことが重要であると考えております。また、中国のみならず西南アジア・東南アジア新興地域の繊維・アパレル産業全体が活性化し、アジア全体の縫製産業が発展するよう力を尽くしてまいります。

縫製機械産業におきましても、このようなグローバル化の動きの中であって、繊維、アパレル産業など国

内関連業界との連携を強化するとともに、特に中国縫製機械協会とは交流、協調を密にし、世界の繊維・アパレル産業の発展に寄与していきたいと考えております。

当工業会といたしましては、このような状況の中において経済産業省をはじめ関係諸機関と連携を図り、次の事業を中心に進めていく所存でございます。

(1) 国際アパレルマシンショー〈JIAM2012〉の推進

今回で第10回目を迎えるJIAM2012は、「新生JIAM」として2012年9月、「繊維の街・大阪」での開催に向けて準備を進めております。日本・中国・アジアを中心とした世界市場から来場いただけるよう出展及び来場勧誘活動を行ってまいります。JIAM2012は、新製品を含む新機軸の商品の展示とともに、縫製素材や副資材、アパレル・ファッション商品とのコラボレーションの展示をし、「JIAMに行けば事業発展のキーとなる新たな発見とヒントが見つかる」という、まさに「繊維・ファッション産業のプラットホーム」となるべく魅力ある国際見本市を目指してまいります。存じますので、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(2) 家庭用ミシンを使ったモノづくりの普及促進

第31回目となった「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、応募校数が増え、全体で前年比10%増の550校となりました。今回は新たに中・高校生の部に、既製品又は自作の物を利用してリメイクやデコレーションした「リメイク・デコ作品部門」を設けましたので、例年以上に個性豊かな力作が増え、全体では約4,000点の応募作品がありました。3月5日（土）には入選作品の表彰式を予定しております。また、「3月4日はミシンの日」、「1～3月はミシンの月」に合わせてミシンの普及活動を実施してまいります。

(3) 知的財産権保護対策の推進

日本製品の模倣品被害は依然として多く、当工業会会員企業も多くの被害を受けています。今年9月に中国で中国国際縫製設備展覧会（CISMA展）が開催されますので、同展において模倣品の流通実態の調査・把握を行うとともに、中国縫製機械協会との連携、交流を密にし、政府及びJETRO海外センター等への働きかけなど模倣対策を推進していきます。

(4) 公益法人制度改革への対応

公益法人制度改革に伴い、当工業会は一般社団法人へ移行します。移行期間は平成25年11月末までですが、

今年は移行申請の手続きを進めるとともに、併せて工業会の事業内容、組織、事務局体制等についても見直しを行うことにより、事業の活性化を図ってまいります。

最後に昨今の企業を取り巻く状況は、依然として厳しいですが、関係各位の更なるご支援、ご協力をいただき、今後とも業界のより一層の発展に向けて努力してまいります所存でございます。

本年の皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成23年 年頭所感

経済産業省 製造産業局産業機械課
課長 藤木 俊光



平成23年の新春を謹んでお慶び申し上げます。

本年も引き続き、よろしくお願いたします。

経済産業省では昨年6月に我が国産業の現状と課題を明確にし、グローバル競争力強化に乗り出すことを目標として「産業構造ビジョン2010」を策定し、さらに政府全体としても「強い経済」を目指し「新成長戦略2010」を策定いたしました。しかしながら、円高の進行、海外新興市場における競争の激化など経済は予断を許さない状況にあります。そのため、政府として、スピード感を持ってこうした戦略を実行に移していかなければなりません。

デフレ脱却と景気の自立的回復に向けた道筋を確かなものとしていくために、「3段階構え」の政策展開を進めております。ステップ1として、低炭素型雇用創出産業立地支援の推進や中小企業の高付加価値化、販路開拓など約9,000億円の予備費を活用した対策を実行に移しております。また、現在、ステップ2として約5兆円の補正予算を活用した対策の速やかな実施に取り組んでいます。具体的には、本年1月にかけてレアアース等利用産業等設備導入事業やイノベーション拠点立地支援事業の公募をスタートいたします。

そのような中、昨年11月末に「国内投資促進円卓会議」において、各産業界の御協力を得て、国内立地促進、中堅・中小企業対策などに重点をおいた「国内投資促進プログラム」を策定いたしました。これは官民一体となって、「成長促進型」（プロ・グロース）政策へ舵を切るべきことを宣言するもので、民間企業が投資拡大に向けた取組を進めるとともに、政府もあらゆる政策を徹底的に検証し、法人実効税率の引き下げ

や主要国との質の高いEPAの推進など、世界最高水準の投資事業環境を整備することを目指すものです。

本年はこうした現状を踏まえ、特に以下のような施策に注力してまいります。

まず、第一に「次世代産業の育成・強化」を推進いたします。将来大きな需要が見込まれるロボット等の先端分野において研究開発を加速し、また、国際標準化を推進することにより、フロンティアを開拓してまいります。

第二に、「国内投資の促進と雇用の拡大」を推進いたします。民間の投資拡大に向けた取組を支援することで、雇用を創出し、グローバルな競争の中で我が国の産業空洞化を招くことのないよう取り組んでまいります。

第三に、「環境問題への対応」を推進いたします。太陽光発電、風力発電、スマートグリッドなど、我が国の優れた環境エネルギー技術を活用し、低炭素社会に向けた新たな社会システムを実現していくとともに、省エネ型製品の普及を促してまいります。

最後に、「資源・エネルギーの安定供給対策」を推進いたします。レアアースを含め重要な原材料等の供給源が限られていることのリスクに鑑みて、中長期的な視点に立って、重要な部材の安定的な確保に向けての対策を進めてまいります。

皆様もご存じの通り、本年は卯年です。兎は、その強い後ろ脚の力でどンドン上り坂を駆け登っていく動物だと言われています。本年が我が国の機械産業がその強みを大いに発揮し、さらに飛躍できる、まさに「兎の登り坂」になることを心から期待しております。皆様方の一層の御発展、御活躍の年となることを祈念いたしております。

「新年賀詞交歓会開催される」

当工業会の平成23年新年賀詞交歓会が、1月18日（火）午後1時30分から日本工業倶楽部3階大ホールにおいて開催されました。経済産業省をはじめ各関係団体と当工業会関係者、報道関係者等、112名の出席のもと盛大に執り行われました。

開会にあたり、当工業会の安井会長から次の挨拶がありました。

今年は工業会にとってジャンプの年の前のステップの年である。ホップ、ステップ、ジャンプと言うが、2012年の新生JIAMに向けてステップの年にしたい。日本経済は厳しい状況であるが、ようやく明るい兆しが見えてきた。世界のアパレル産業の動向では、中国の内需をいかに取り込むかが重要である。今年の当工業会の中心事業は、JIAM2012の推進、家庭用ミシンを使ったモノづくりの普及促進、知的財産権保護対策の推進、公益法人制度改革への対応を行っていききたいと述べられました。

続いて、ご来賓として出席された経済産業省製造産業局産業機械課 藤木課長殿から、景気は過去2年間の厳しい経済環境から回復の道のりをたどりつつあり、今年は新しい飛躍の第一歩にしたい。昨年当省がまとめた「産業構造ビジョン2010」では2つのポイントとして、日本のビジネス環境を整備すること、更に官民挙げて拡大する世界のグローバルマーケットで勝つことであり、これを実現していくことが2011年の課題であるとのことご挨拶がありました。

その後、当工業会の中村副会長の乾杯発声の後、和やかな雰囲気で行われ、中締めを美馬副会長が行い、盛況のうちに終了しました。



安井 義博 会長



藤木 俊光 産業機械課長



中村 和之 副会長



美馬 大道 副会長



国際アパレルマシンショー (JIAM 2012 OSAKA) について

JIAM2012 OSAKAは、3月から本格的な出展勧誘活動を行います。JIAM2012の情報(コンセプト、開催概要等)は、下記のホームページでご覧いただけます。

<http://www.fair.or.jp/jiam2012>



第31回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第31回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数550校、応募点数3,968点で、多数の応募がありました。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり決定しました。

最優秀作品

小学生の部



葛飾区立道上小学校(東京都)
古田 楓

中学生の部



衣服作品部門
瑞穂市立穂積中学校(岐阜県)
前田 織衣



小物・インテリア作品部門
浜松開誠館中学校(静岡県)
加藤 友里

高校生の部



小物・インテリア作品部門
福島県立相馬高等学校(福島県)
鈴木 千春

衣服作品部門
千葉県立佐倉東高等学校(千葉県)
今村 亜里紗



1. 作品賞 (敬称略)

- 最優秀賞 5点
- 優秀賞 22点
- アイデア賞 3点
- 佳作賞 36点
- 努力賞 125点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点

2. ホームソーイング振興最優秀校賞

- 小学校の部 草加市立瀬崎小学校(埼玉県)
- 中学校の部 府中市立府中第十中学校(東京都)
- 高等学校の部 学校法人原田学園 山形女子専門学校(山形県)

編集後記

昨年の我が国経済は緩やかな景気回復が続きましたが、本年もこの傾向が続き、今年の干支の「うさぎ」のように軽やかなフットワークで、さらに回復に加速をつけて、本業界をはじめ日本経済が元気になることを祈念いたします。

今年もJASMA会報編集WGが中心になってホットな情報を提供してまいりますので、ご意見・ご感想などがあれば遠慮なくお聞かせ下さい。

(T. S.)

JASMA会報

Vol.7 No.4 2011年1月28日発行

社団法人 日本縫製機械工業会
発行責任者：榎本 陸

〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-12
TEL. 03-3597-0470 FAX. 03-3597-0477

URL <http://www.jasma.or.jp>
Eメール info@jasma.or.jp